近畿TEC-FORCE 活動通信

台風１０号　災害対応
No. 8-1【平成28年10月12日(水)】

●今回台風10号のTEC-FORCE活動で、隊員が現地で得た知見・経験は大変貴重なものであることから、近畿地方整日局全体で知見の共有を図り、今後の災害対応に活かすため「TEC-FORCE帰還報告会」を開催した。
●現地で活動したTEC-FORCE隊員６班・44名のうち24名が出席し、各班から現地の状況や活動で得た知見の報告、意見交換を行った。

帰還報告会の概要

開催日:　平成28年10月11日（火）
場　所:　近畿地方整備局　別館大会議室
出席者:　111名（内、現地派遣隊員24名、取材マスコミ:4社）

整備局長挨拶

・近畿地方でもいつ何時大きな災害があるか分からないので、TEC-FORCEを受け入れるための準備を進めていきたい

・現地の体験を踏まえて今後に活かせる報告会となることを希望する

防災課長　活動総括

・近畿からは17日間、6班44名のべ317人日を岩手県宮古市、岩泉町に派遣

・支援市町の首長様からお礼の言葉を頂いている

・これからも、来たるべき災害に備え、今回の経験を活かし、研修、物資、資材の準備を進めていきたい

会場の様子

各班からの活動報告

意見交換

近畿TEC-FORCE 活動通信

台風１０号　災害対応
No. 8-2【平成28年10月12日(水)】

隊員からの活動報告

●活動内容　▲苦労したこと

連絡調整班　隊長

●東北地方整備局災害対策本部に常駐し、東北地整の総合司令部と、現地TEC班及び近畿支援対策本部との連絡調整を実施した

▲被災直後の自治体は被害の実態を把握できていないことも多いため、被害の全体像を把握する初動調査を実施した

被災状況調査班（道路・岩泉町）
班長

●岩泉町の孤立している門地区、穴沢地区につながる道路を含めた、道路の被災状況調査を実施した

▲携帯電話が使用出来ない地域では、その都度衛星携帯電話を設置し、連絡をとる必要があった

被災状況調査班（道路・宮古市）
班長

●宮古市の9地区52箇所の道路の被災状況調査や、早急に対策が必要な箇所は簡易な応急処理も実施した

▲市道の被災箇所に限られた資料でたどりつかなければならなかった

被災状況調査班（道路・岩泉町）
班長

●岩泉町において、67路線57kmの道路と、21橋の被災状況調査を実施した

▲被災により通行できない道路があり、調査箇所へたどりつくまで、通常の約5倍の2時間以上がかかることもあった

被災状況調査班（河川・宮古市）
班長

●宮古市の国道106号以南の河川の被災状況調査を実施した

▲公民館で行った調査のとりまとめは、室温30度を超える環境下での作業であった

▲被害情報が不正確な時があり、地元の方に聞きながら現場にたどりついた

広報班　班長

●被災状況調査班の活動を撮影した

▲撮影対象の広さが変わる中、ズーム機能の乏しいカメラで活動状況を撮影する必要があった

▲被災により通れない道路も多く、地元の方に聞きながら移動した

近畿TEC-FORCE 活動通信

台風１０号　災害対応
No. 8-3【平成28年10月12日（金）】

懇談（質疑応答）の主な内容

①人の進入できない大規模な被災箇所の調査では、ドローンが有効
②被災地では、最新の情報を得るため、住民の方とコミュニケーションをとることも重要
③情報収集、連絡調整を行う班が東北地方整備局の災害対策室に常駐でき、情報共有がスムーズであった

①ドローンによる上空からの被災状況調査
（岩手県・宮古市）

②被災地の住民からの情報収集
（岩手県・宮古市）

③東北地方整備局の災害対策室の状況

企画部長より全体総括

今回、派遣された方は経験値として身についたと思うし、行っていない方は知識として蓄え、一歩でも経験値に近づくよう努力し、今後の災害対応で活かしていってほしい

TEC-FORCEは人道的な支援なども求められる新たな段階に入ってきた。TEC-FORCEの使命を十分に認識し、積極的な組織になればと思う

今回のTEC-FORCE派遣で得た知見を、近畿地方のTEC-FORCE受け入れ体制にも反映させていく必要がある